

2010 年度 小委員会活動成果報告

(2011 年 3 月 30 日作成)

小委員会名	湿気小委員会	主 査 名：佐藤 真奈美 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (熱環境運営委員会)	委員長名：久野 覚 主 査 名：猪岡達夫
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・前委員会の活動における未解決の事項について、これまでの WG を発展させ課題解決にあたる。 ・各 WG の成果を熱シンポジウム等で公表する。 ・ 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有 (1 名)	
	佐藤真奈美 (大阪工大)、青木 哲 (岐阜高専)、荒井 良延 (鹿島建設)、岩前 篤 (近畿大学)、小椋 大輔 (京都大学)、尾崎 明仁 (京都府立大学) 坂本 雄三 (東京大学)、鈴木 大隆 (北海道立北方建築総合研究所)、高田 暁 (神戸大学)、永井 久也 (三重大学)、鉢井 修一 (京都大学)、本間 義規 (岩手県立大学)、水谷 章夫 (名古屋工大)、松岡 大介 ((株) ポラス暮らし科学研究所)	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>吸放湿材の評価と利用 WG (継続)：</p> <p>吸放湿材の効果の定量化を目的として以下を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吸放湿材の評価と利用に関わる課題の把握と研究事例の整理 ・吸放湿材の効果の検討条件と評価方法 <p>建物の「湿害」評価システム検討 WG：</p> <p>最終消費者・技術者・研究者の共通認識となる「湿害」の定義を示すこと、さらにはそれを基礎として「湿害」の診断および予測を可能とする体系、すなわち、「湿害」評価システムの構築を目指す。</p> <p>2011 年 3 月終了、2011 年 4 月よりアカスタ出版に向け出版委員会に移行</p> <p>ダメージファンクション構築 WG (継続)：</p> <p>木材、金属材など代表的な建築材料を対象に、環境条件 (設置環境の温湿度、材料含水率、経過時間など) が材料物性 (例えば強度等) に及ぼす影響を把握し、それらの結果を基に各材料毎の劣化関数等の開発を学術的な観点から行う。</p> <p>建築全体の温湿度環境性能の評価 WG (継続)：</p> <p>建築全体 (空間および壁体内) の温湿度挙動の予測・評価方法について検討</p>	
2010 年度予算	170000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	小委員会 3 回 (シンポジウム実行委員会含む) 各 WG における委員会開催 15 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. 第 40 回熱シンポジウム 実施 参加者数 133 名 「人・物・建物にとっての湿気」
大会研究集会	

対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 <small>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</small>	1. 湿気関連の諸問題の整理とその解決に向けて、委員会の開催をおこなった。 2. 4WGともに活発にWGを開催した。これらの活動を積極的に支援した。 3. WGの活動結果の公表として、建物の「湿害」評価の出版準備を支援した。 4. 2010年10月開催の第40回熱シンポジウムを実施した。
委員会活動の問題点・課題	1. ホームページを開設したいが、適切な人材の確保、経費の確保が難しい。 2. 3.

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。